

《略年表》東京鳳鳴会のあゆみ

(昭和28年～平成8年6月)

年次 主な出来ごと・会員の動き・関連事項

昭和28年 (1953)

- *在京大中会・会長清水武治(D11)退任、竹村吉右衛門(D15)を会長に選出(5/10)
- *この頃の会合場所=新宿「あきた」 五反田「吾作」 神田「如水会館」 日比谷「三井銀行本店・食堂」 新宿「安田生命本社・食堂」 西銀座「菊正」 新橋「蔵前工業会館」 日比谷公園「松本楼」 神宮外苑「日本青年館」など

昭和29年 (1954)

- *在京大中会の名称を「東京鳳鳴会」と改称(5月)

昭和31年 (1956)

- *東京鳳鳴会会則を改正(5/10)

昭和33年 (1958)

- *東京鳳鳴会会員録・社会人の部(昭和32年12月1日現在)発行(3/25)
(注) この会員録は、在京大中会を東京鳳鳴会に改組してのち編集幹事が苦心して作成したもので、東京鳳鳴会の歴史を尋ねる上で貴重な資料である。会員録に記載の会則は現行会則の原典である。
- *この当時、東京鳳鳴会の事務所は中央区日本橋小網町の安田生命秘書室に置かれ、幹事会は度々ここで開催され夜遅く迄、秘書課長の親切なお世話を頂いた。

昭和38年 (1963)

- *会長竹村吉右衛門退任、鈴木正(D25)会長就任(5/10)
幹事長加賀谷光次郎退任し、川口十郎(D27)が幹事長に就任
(注) 竹村会長の就退任時期については『竹村吉右衛門追想録』による

昭和41年 (1966)

- *東京鳳鳴会会員名簿(社会人の部)発行(4月)

昭和45年 (1970)

- *東京鳳鳴会会員名簿発行(5月)
- *この頃、東京鳳鳴会の事務局は鈴木会長が社長を務める中央区日本橋江戸橋の三木証券株式会社内に置かれた。(また、幹事会は副会長石田茂夫が社長を務める日本STジョンソン商会(神田)でしばしば開催され、石田氏の多大なご厚意をいただいた)

昭和50年 (1975)

- *幹事長川口十郎退任し、津村謙二(D37)幹事長に就任
- *事務局は調布市柴崎の津村謙二方に置かれた
(本会の事務全般は津村一家のご尽力に拠るところ大である)

昭和51年 (1976)

- * 定時総会（5/10）で役員改選＝鈴木正会長退任し成田富治郎が会長に、副会長に石川文三、中田信が就任、幹事長津村謙二留任
- * 定時総会来賓＝鳳鳴・土佐利門校長、能登至教諭
- * 第一勧銀に東京鳳鳴会専用口座を開設（6/29）
- * 東京鳳鳴会会報創刊号および東京鳳鳴会会員名簿発行（11/30）
- * 大館桂城公園に上原敏彰碑建立（発起人代表鈴木正）“上原敏の会”（代表鈴木正）発足
- * 大館出身東京四十二会（代表石川定男）は地元の合同年祝い会と桂城公園に“まちのあゆみ”の碑を建立（11/3）
- * 三七会、八鳳会など有志ゴルフ会、福島県安達太良C/Cで開催（10月）鳳鳴ゴルフ会の発祥となる
- * 元大中・鳳鳴高教諭・斎藤敬三先生死去（11/5）

昭和52年（1977）

- * 鳳鳴ゴルフ第1回大会（10/16群馬県ノーザンC/C赤城ゴルフ場）

昭和53年（1978）

- * 竹村名誉会長は大館鳳鳴創立八十周年記念に当り「師恩」と題して記念講演
成田会長、中田副会長、津村幹事長ら式典に出席（5/10）
- * 鳳鳴ゴルフ第2回大会（千葉県御茶の水C/C）

昭和54年（1979）

- * 鳳鳴高校野球部、千葉県成田市に遠征合宿、会員有志激励懇談（3月）
- * 鳳鳴高校囲碁部、高校対抗全国大会に出場、会員有志激励懇談
- * 東京鳳鳴会会員名簿発行（9/30）
- * 鳳鳴ゴルフ第3回大会（千葉県御茶の水C/C）
- * 竹村名誉会長の「喜寿祝賀会」を有志で開催（11/8京王プラザホテル）
- * 秋期懇親会（11/22）来賓＝鳳鳴・菅原繁雄校長、能登至教諭
- * 顧問加賀谷光次郎、勲四等瑞宝章を受章（11/3）
- * 第1回学生会部会（部長九島信義、副部長安東正直）開催、母校より松下教諭出席（12/2私学会館）

昭和55年（1980）

- * 第5回青鳳会（新制鳳鳴高校卒業生有志の会）開催（1/25「中野サンプラザ」）
- * 東京鳳鳴会会報第2・3合併号発行（4/25）
- * 鳳鳴ゴルフ第4回大会（5/25船橋C/C）
- * 鳳鳴高校囲碁部、高校対抗全国大会に出場、会員有志激励懇談
- * 東京貯金局に東京鳳鳴会の郵便振替口座を開設（11/4）

昭和56年（1981）

- * おおとり会（鳳鳴会女性会員）発行の会報「おおとり」を賛助講読

昭和57年（1982）

- * 総会・懇親会（5/10）来賓＝鳳鳴・坂田良一校長、野呂勝也教諭、木津栄三郎元教諭
- * 秋田県高校同窓会在京支部連絡会（秋高連）発会式（4/23）

昭和58年（1983）

- * 「秋高連」第1回総会（1/8）
- * 定時総会（5/10）で幹事長津村謙二を副会長に、田所勝太郎を幹事長に選任
- * この頃から事務局を千代田区九段南の（株）24スタジオ代表取締役工藤禮次郎方に置く
- * 春の叙勲で会員横田正行(D19)、勲四等瑞宝章を受章

昭和59年（1984）

- * 総会・懇親会（5/10）来賓＝鳳鳴・石川光明校長、松江長成・山田道生教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、PTA会長
- * 名誉会長竹村吉右衛門（安田生命保険元社長）中央鉄道病院で肝硬変により死去（6/7）（従四位勲二等瑞宝章）
- * 「竹村記念公園・松下村塾」竣工落成祝賀会（10/28）＝大館鳳鳴高校振興会が竹村名誉会長から寄贈された土地を代替して記念公園を造成し、ここに山口県萩市の松下村塾を模築したもの（成田会長、津村副会長、村上副幹事長出席）
- * 座談会「故竹村会長を偲び大中学・鳳鳴会を想う」開催（10月、五反田「吾作」）（鈴木正、豊口清一、岩沢正二ら8名）
- * 秋期懇親会(11/16)来賓＝鳳鳴・石川光明校長、松江長成教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、PTA会長

昭和60年（1985）

- * 東京鳳鳴会会報第4・5合併号発行（3/20）
- * （本部）「鳳鳴会会報」創刊（5/10）
- * 総会・懇親会（5/10）来賓＝鳳鳴・石川光明校長、山田道生・菅原敏夫・田山伸夫教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、斎藤憲市副会長、三沢宏鷹鳳鳴会長
- * 秋期懇親会（11/8）来賓＝鳳鳴・石川光明校長、松江長成・山田道生教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、斎藤憲市副会長
- * 竹村吉右衛門著『人間形成』仏教振興財団より発行（5/20）
- * 「おおとり会」（鳳鳴会の女性部会）5月8日の新聞発行をもって解散

昭和61年（1986）

- * 定時総会で役員改選＝副会長に鈴木弘を選任（副会長津村謙二は顧問に）
- * 総会・懇親会（5/12）来賓＝鳳鳴・榊田清校長、加賀正隆教頭、清野宏隆・神尾怜子、山田道生教諭、木津栄三郎元教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、斎藤憲市副会長、三沢宏鷹鳳鳴会長、九島平悦
- * 東京鳳鳴会会員名簿発行（11/5）

- * 秋期懇親会 (11/7) 来賓＝鳳鳴・榊田清校長、石川光明前校長、松江長成・宮越雅一教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、斎藤憲市副会長、浜松和平大館市商工課長、武内政雄大館印刷社長、小坂高・桂高同窓会東京支部代表
- * 成田富治郎会長は鳳鳴高校文化講演会で「後輩諸君にのぞむ」と題して講演 (10/29大館市民文化会館)
- * 『竹村吉右衛門追想録』安田生命保険相互会社より発行 (5/7)
- * 前会長鈴木正、死去 (6月)

昭和62年 (1987)

- * 総会・懇親会 (5/10) 来賓＝鳳鳴・柴田邦二校長、佐藤正・斎藤重徳・北林寛子・宮越雅一教諭、高橋敏夫鳳鳴会長
- * 秋期懇親会 (11/13) 来賓＝鳳鳴・柴田邦二校長、松江長成教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、斎藤憲市 PTA 会長、桂会東京支部代表、遠藤欽一秋田魁新報編集部長
- * 「木津栄三郎先生の米寿を祝う会」を大中26～42期の有志で開催 (9/12霞ヶ関「キャスル」)

昭和63年 (1988)

- * 大館鳳鳴高校創立九十周年記念式典、記念祝賀会 (5/10)。記念文化講演会で竹村堅次 (大中39期) は「人生観を語る～私の歩いた道」と題して講演 (大館市民文化会館)
- * 総会・懇親会 (5/14) 来賓＝鳳鳴・柴田邦二校長、菅原準一・宮越雅一・長岐大作・田所健教諭、木津栄三郎元教諭、高橋敏夫鳳鳴会長
- * 秋期懇親会 (11/15) 来賓＝鳳鳴・柴田邦二校長、松江長成、奈良伯夫教諭、藤島康一事務長、高橋敏夫鳳鳴会長、加藤政雄副会長、殿村碩太郎、浜松和平、武内政雄、桂会代表、仙台鳳鳴会・杉江政直会長、藤田昇事務長、諸沢八郎、木村四郎、小坂高同窓会代表、ゲスト＝直木賞作家阿部牧郎(H4)、魁新報・河田徹(H15)
- * 秋期懇親会で司会に女性落語家を起用、アトラクションとしてマジックショー、ふるさと物産即売会を行う (協賛；小池陽一、横井秀夫、栗久商店)

平成元年 (1989)

- * 総会・懇親会 (5/10) 来賓＝鳳鳴・鎌田重光校長、中田勝也教頭、松江長成・平泉健之助・松下光夫・佐藤利教諭、高橋敏夫鳳鳴会長
- * 定時総会で幹事長田所勝太郎退任、武藤正を幹事長に選任 (5/10)
- * この年から総会および懇親会の担当幹事を各期で交替する当番制を採用
- * 秋期懇親会 (11/10) 来賓＝鳳鳴・鎌田重光校長、松江長成教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、日景比内・仲沢功大館市会議員、浜松和平大館市産業部長、鷹巣農林・小坂高・桂高各同窓会代表、遠藤欽一魁新報部長
- * 大中36期・卒業五十周年記念誌『36期生の歩み』を発行 (3/2)
- * 鳳鳴バレーボール部 OB・OG 会関東支部発足の会 (5/27「高輪クラブ」)

平成2年(1990)

- * 総会・懇親会(5/11) 来賓=鳳鳴・中田勝也教頭、加賀隆寛・宮越雅一・小林璋洋・清野宏隆・奈良伯夫・菊地保男教諭、松江長成前教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、遠藤欽一魁新報編集部長
- * 定時総会役員改選、会長に鈴木弘、副会長に石川文三、工藤禮次郎、糸屋ケイ子を選任
会長成田富治郎は顧問に(5/11)
- * ギタリスト原荘介(小笠原荘介 H10) ステージデビュー15周年記念リサイタル(2/7 渋谷公会堂)
- * 大中37期・卒業五十周年記念誌『大中三七会誌』を発行(5/10)
- * 鳳鳴2期・卒業四十周年記念誌『四十年の懐古』を発行(9/22)
- * 秋期懇親会(11/2) に社会人と学生の一層の接触を強めるために学生会員の参加を図る
- * 秋期懇親会来賓=鳳鳴・鎌田重光校長、小林璋洋・平泉健之助教諭、小番巖元教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、木村高明 PTA 会長、仙台鳳鳴会代表・桂会・小坂高各同窓会東京支部代表、遠藤欽一魁編集部長
- * 鳳鳴バレーボール部 OB・OG 会関東支部例会(6/2 「高輪クラブ」)
- * 元大中教諭・横山勇助先生死去、享年97歳(6月)
- * 元大中、鳳鳴高教諭・小野進の生涯を綴る『野を駆ける夢・小野進伝』を秋田魁新報社発行

平成3年(1991)

- * 鳳鳴会(本部) 会則改正(昭和52/5月改正の会則を一部改正し7/3施行)
- * 総会・懇親会(6/4) 来賓=鳳鳴・大塚強校長、高橋敏夫鳳鳴会長、乳井 PTA 会長、仙台鳳鳴会代表、桂会東京支部代表、遠藤欽一魁新報東京支社編集部長
- * 定時総会で秋の懇親会を大中卒グループと鳳鳴卒グループとに分け、別々に開催する案を諮り、賛成多数で可決
- * 総会当日、特別参加の大館神明社佐藤文彦宮司より「社殿再建百周年」記念写真を全員に贈呈
- * 秋期懇親会シニアの部(11/6) 来賓=鳳鳴・佐藤俊雄教頭、高橋敏夫鳳鳴会長
- * 同ジュニアの部(11/15) 来賓=小畑元大館市長、鳳鳴・三浦壹志教頭、川手純夫元教諭、石田真鳳鳴会副会長、三浦秀明大館市秘書係長、遠藤欽一魁編集部長
アトラクション=佐藤真理子(桂高校卒、ロック歌手)
- * 大中26期・卒業記念誌『楯と桜の八十路の懐古録』を発行
- * 大中38期・卒業五十周年記念誌『楯と桜の幾春秋』を発行
- * 鳳鳴3期・卒業四十周年記念誌『SUN 一紀』を発行(3/31)
- * 鳳鳴バレーボール部 OB・OG 会関東支部例会(9/21 「高輪クラブ」)

平成4年(1992)

- * 東京鳳鳴会会報第 6 号発行 (5/10)
- * 総会・懇親会 (6/25) 来賓＝鳳鳴・大塚強校長・平泉健之助・加賀隆寛・松下光夫・石田久美子・宮越雅一各教諭、高橋敏夫鳳鳴会長・松江長成幹事・戸田富美枝理事、仙台鳳鳴会・桂会東京支部・小坂高同窓会各代表、佐々木哲也魁東京支社編集部長
- * 定時総会 (6/25) で役員改選、副会長に武藤正、丸谷統男、工藤禮次郎、糸屋ケイ子幹事長に菊地靖孝を選任 (副会長石川文三は顧問に)
- * 総会当日、「母校恩師を囲む新入会員座談会」を開催 (「スクワール麴町」会議室)
ゲスト佐々木専造 (秋田県東京事務所長)、越前喜六 (上智大学教授)
- * 鳳鳴バレーボール部 OB・OG 会関東支部例会 (9/26「ホテルエース高輪」)
- * 鳳鳴 4 期・卒業四十周年記念誌『四季濟々』を発行、また戦後、進駐軍によって没収されたと伝えられる大中時代の校旗を復元制作して母校へ寄贈 (10/17)
- * 秋期懇親会 (11/4) 来賓＝鳳鳴・畠山和也教頭・佐藤俊明教諭、岩沢米太鳳鳴会副会長・石川修役員・川上愛子特別会員、桂会東京支部代表、千葉吟子 (日体大短大教授)
特別講演＝武藤泰明 (三菱総研室長)、佐々木専造 (秋田県東京事務所長)
アトラクション＝佐藤真理子

平成 5 年 (1993)

- * 大館鳳鳴高校創立九十五周年記念式典 (5/10)
- * 東京鳳鳴会総会・懇親会 (6/1) 来賓＝鳳鳴・大塚強校長、卒業生担任教諭、高橋敏夫鳳鳴会長、下田直孝広報委員長、荒谷寿衛会計監査、小畑元大館市長ほか
- * 総会当日、「新入会員歓迎・激励の座談会」を開催 (16.30～「スクワール麴町」会議室)
- * 鳳鳴野球部 OB で「野球部東京 OB 会」設立総会 (9/12「ホテル聚楽」)
- * 大中39期・卒業五十周年記念誌『第三十九期懐古録』を発行 (3/8)
- * 恩師「菅原保、庄司雄司両先生を囲む会」を鳳鳴 1～15 期有志で開催 (9/18「スクワール麴町」)
- * 鳳鳴ラグビー部 OB で「鳳鳴ラグビー部 OB 会関東支部」設立総会 (6/1「スクワール麴町」) ※同支部設立を記念して、関東地区と大館地区の有志が母校ラグビー部強化のために100万円を寄付 (4/27)
- * 鳳鳴 5 期・卒業四十周年記念誌『吾曹函南』を発行 (10/9)
- * 鳳鳴ゴルフ第19回大会 (10/18)
- * この年から秋期懇親会は開催せず
- * 舞踏家・大野一雄 (D22), 「アジア国際舞踊フェスティバル93 in 大館」でふるさと公演 (8/9)

平成 6 年 (1994)

- * 大館鳳鳴会総会において会長高橋敏夫勇退、藤嶋省平(H4) 新会長に就任 (5/9)
- * 鳳鳴高 1 年有志約40名、東京の予備校で集中学習、会員有志は旅館に陣中慰問 (3/下旬)

- * 東京鳳鳴会会報第7号発行 (5/1)
- * 総会・懇親会 (6/10) 来賓=鳳鳴・伊藤昭夫校長、平泉健之助・菅原準一・今泉悟・伊藤一寿教諭、藤島省平鳳鳴会長、高橋敏夫前会長、吉田富久子理事、金沢邦男PTA会長、伊藤碩彦大館商工会議所会長、和田成達課長、関久敏大館市観光物産課係長、桂高・大館商業高・大館工業高・大館高・鷹巣農林高・小坂高各同窓会代表、佐々木哲也魁新報部長、アトラクション=玉川お福 (原保江)
- * 東京鳳鳴会の会旗を新たに製作し定時総会で旗開きを行う
- * 総会当日、「新入会員歓迎懇談会」を開催 (「全電通会館」小会議室)
- * 大館市に“小林多喜二文学碑建立の会”発足 (会長石田真、実行委員長伊多波秀夫 5/21)
- * 大館ふるさと会発足 (会長竹村堅次) 総会・祝賀会 (11/6「全電通会館ホール」)
- * 元大中教諭・木津栄三郎先生死去、93歳 (12/10)
- * 鳳鳴ゴルフ第20回大会 (5/12「森林公園ゴルフ倶楽部」)
- * 鳳鳴3期大館の会主催で元リトアニア駐在外交官故杉原千畝氏を描いた劇「センポ・スギハア」明石健(H3)が主役を演じ大館市民文化会館で公演 (9/22)
- * 女流浪曲師玉川お福 (本名・原保江 H6) は病魔を乗り越え、郷里比内の特別養護老人ホーム「扇寿苑」や鷹巣の北秋中央病院などで公演 (11月)
- * 歌手上原敏 (本名松本力治、D25) とその周辺を描いた伊多波英夫著『密林の絶唱・上原敏』秋田魁新報社から発行 (11/10)

平成7年(1995)

- * 各期代表幹事を対象とした拡大幹事会を開催、会則一部改正など提案 (3/6 駿河台「エスペリア」)
- * 東京鳳鳴会会報第8号発行 (5/1)
- * 総会・懇親会 (6/9) 来賓=鳳鳴・高橋元教頭、平泉健之助・田村正男・下田裕子・松田聡教諭、藤島省平鳳鳴会長、竹村博義副会長、大館高・桂高同窓会代表、前川重明魁新報編集長
- * 定時総会で副会長丸谷統男退任、福島等を副会長に選任 (6/9)
- * 総会当日、「新入会員歓迎懇談会」を開催 (「スクワール麴町」会議室)
- * 事務局に東京鳳鳴会の専用電話を開設 (03-3221-4766, FAX03-3264-2481)
- * 母校の創立百周年記念事業第1回実行委員会開催 (11/14秋北ホテル)
- * 鳳鳴会支会長会議に菊地幹事長出席 (11/14「大館鳳鳴高校」)
- * 鳳鳴バレーボール部創部五十周年記念祝賀会 (6/11「大館市民体育館」)
- * 第2回大館ふるさと会 (11/12「ホテルイースト21東京」)
- * 第3回野球部東京OB会開催、空席の会長に吉田雄二(H9)を選出 (11/25三田クラブ)
- * 元鳳鳴高校長・石川光明先生死去
- * 玉川お福 (原保江 H6) は鳳鳴同期の後援 (代表吉田富久子) に支えられ、大館市民文

化会館の「ふるさと浪曲公演」で熱唱（10／21）

*加賀谷光次郎顧問死去（8／5）

平成8年（1996）

*定時総会・懇親会の事前準備会として拡大幹事会（3／8「オリンピア」）

*東京鳳鳴会会報第9号発行（5／1）

*母校の百周年記念事業へ対応するため、百周年特別プロジェクト委員会を開く（6／1四谷「ルノアール」）

*定時総会・懇親会（6／7「スクワール麴町」）

*総会当日、「新入会員歓迎懇談会」を開催（「スクワール麴町」会議室）

*鳳鳴7期・卒業四十周年記念誌『七鳳記』（1995. 7. 7付）発行

*ラグビー部OB会鈴木欣之助（H2）の肝入りで鳳鳴高ラグビー部、法政大学で強化合宿

*鳳鳴バレーボール部OB・OG会関東支部例会（2／24国立競技場内「オリンピア」）

*故村井卓・鳳凰バレーボール部初代マネージャーが病床から熱い想いを込めて寄せた「創部五十周年記念部歌」を披露

*ギタリスト原莊介（H10）ステージデビュー20周年記念を新装なった安田生命ホールでリサイタル（1／8）

*舞踏家大野一雄（D22）は「花鳥風月」など全作品を上演（5／2－4横浜市いずみ区テアトルフォンテ）

あとがき

母校の創立百周年も近づいており、これに併せて東京鳳鳴会としても、何か記念になる誌料を作成するようになるであろうから、この会の沿革、年譜などについて記録を整理しておいてほしいと、事務局担当の工藤副会長から依頼があったのは平成7年の秋頃であったろうか。同様の話が武藤副会長や菊地幹事長からもあって、少しずつ関係資料を整理し始めた。まず、こういうことに明るい山田正邦氏（H3）や糸屋ケイ子氏（H6）に頼りながら資料を補足したり、鳳鳴高校の平泉先生に『鳳鳴会報』のバックナンバーから不足分を送っていただいた。



いろいろ調べていて、何といっても大中全会から東京鳳鳴会へと強力な推進を図った竹村会長と加賀谷幹事長の存在は偉大であったと想う。加賀谷氏の生存中に聞き取り調査を心掛けながら、ついに果たせなかったことは悔やまれるが、先般、ご遺族から貴重な資料を頂戴できたのは僥倖であった。



大中全会を経て東京鳳鳴会へと数多くの先輩たちが、どれほど苦労を重ねて会の発展に尽くしたのか。百年を数えようとする長い絆に結ばれ、肩を組みながら共に「森吉の嶺」を絶唱するわれら同窓の集いが、どのように遷り変ってきたのか、そこには起伏もあれば盛衰も見られたことであろう。この資料だけでその総てを語ることは至難である。



いま、わが同窓の活躍ぶりを見ると、東京と郷里の距離がぐんと近くなったように感じられる。教育界、産業界を始め文化やスポーツの面でも芸術の分野においても鳳鳴健児・賢婦の羽ばたく世界は大きく広がっている。



耳を澄ませば、母校の文化講演会で生徒諸君に諄々と「師恩」を説く竹村吉右衛門氏の声が聞こえる。「鳳鳴健児よ 衰弱するなかれ」と成田富治郎氏は後輩に檄す。そして、竹村堅次氏はその歩んだ道を振り返って「人生観」を語る。

市民文化会館では、明石健氏の外交官杉原千畝の偉業を称える舞台の幕が開く。

目を閉じれば、国際的なギタリスト原莊介氏が奏でる幽幻の世界が広がってくる。

舞踏家大野一雄氏は米寿を超えて「花鳥風月」を艶かに舞うではないか。

玉川お福さんのふるさとを懐う熱唱に涙しない人はいないであろう。



森吉・鳳凰の嶺々は悠久の姿を見せ、米代・長木の流れは滔々として尽きない。

一世紀におよぶ歴史と栄光に満ちた、我らが母校の名をば讃えてやまない。

(石川文三・D33)